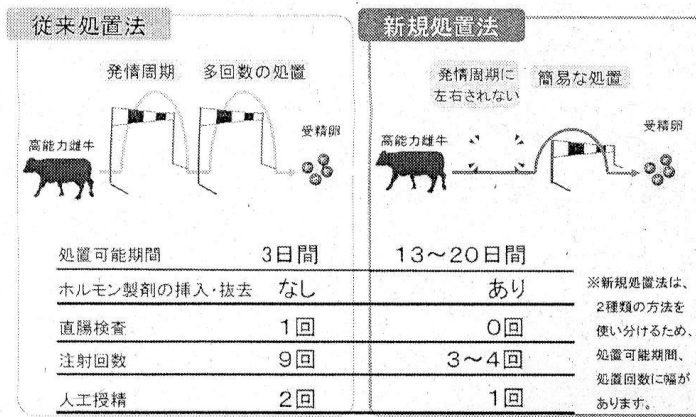


# 農業技術 リズム

受精卵移植技術による優秀な  
子牛の生産は、家畜改良促進や

腔内留置型黄体ホルモン製剤を利用した  
採卵プログラムの簡易化技術

## 牛への処置回数が 従来の半分に低減



従来処置法と新規処置法の比較

処理可能な期間が拡大し、処置回数が低減できます

肉用牛、乳用牛を飼養する農家の所得向上に役立ちます。しかし、移植に用いる受精卵の採取には、技術の普及、活用を阻む二つのハードルがありました。一つは牛の発情発見後、短い期間しか受精卵採取の処置ができないこと。もう一つは、牛へ

の多回数の処置が必要なことです。行う処置は注射が多く、牛にも人にも大きな負担でした。そこで牛の腔（ちつ）内に留置するホルモン製剤を活用した簡易な受精卵採取技術を開発しました。今回開発した方法は、従来法と採卵成績は変わりませ

んが、牛の発情周期21日間のうち、処置可能期間が13~20日間に拡大します。

また牛への処置回数も従来の半分ほどに低減できます。ホルモン製剤の挿入と抜き取りは簡単で、牛への注射回数も9回から3、4回に減らせるため、牛にも人にも優しい処置といえます。

今後、県内でのさらなる技術活用促進に向け、関係機関と連携して普及を進めていきます。

(県農林技術開発センター 大家畜研究室主任 山崎邦隆)